

三吉ギツネにっしん

八千種小学校四年 内藤のこ



◆調べようと思ったきっかけ

わたしの村には「きつねのおろよ」というものがあります。男の人しか参加できないので、わたしは行ったことがないのですが、トンドの後、外で待っていると「きーつねのおーろよー」、「おーろおーろおーろよー」と大きな声が聞こえてきます。

お父さんに聞くと「昔、山の中で化けて人をよくまよわせたキツネがおったんや。それでそのキツネが入ってこんようにほこらに特別なお参りをして結界をはりに行ってるんや」



第1・2の結果

で。」ということでした。わたしは、「そんな悪いキツネおったんや」と思いました。

南大貫の「きつねのおろよ」だけじゃなく、かじやの「かくしほちよじ」、ほかの村にもたくさんキツネに関するものが残っています。昔の人達は、この人をだますキツネを「三吉」とよんでいたようです。わたしは、この「三吉ギツネ」が気になったので調べてみようと思いました。



鍛冶屋地区のかくしほちよじ

◆三吉ギツネ伝説

よく言われているようにキツネは「化ける」のが得意で、夜に池で藻を頭にのせてきれいな娘さんに化け、男がふらあつとついて行ってしまふ。何もおかしいとは思わないそうです。山の方へどんどん迷いこんで歩いていくうちに夜が明けてしまうのです。

「なんでこんな所におるんやろ。さっぱりわからん。」という感じで化かされて、山からふらあつと出てきた男たちは、「三吉ギツネにやられたな。しっかりせえ。」と背中をたたかれたそうです。多くの人が化かされて迷惑したそうです。

三吉ギツネは、加西の飯盛山という所に住んでいて、加西にもこんな話があります。

道に迷った人がだれにも会わずに、心細くて途方にくれていたら林の中に明かりが見えた。大きな家があつて、こんな大きな家ならとめてくれるにちがいないと思って「こんばんは、こんばんは。」と声を朝までかけてしまふ。その大きな家は、実は石の灯籠で、その灯籠に話しかけている人を見て、「あんた三吉ギツネに化かされたんや。この辺りは気をつけなされや。」と言っていたそうです。



大きな家に見えていた灯籠

福崎にもこういう話があります。西光寺野を通りかかった男に、「もし、もし。」とよび止める若い女の声。それはそれはきれいな女の人で、「お願いしたいことがあります。どうかお聞きください。」と何度も礼をしながら言うので聞いてみました。すると、「実はわたしは飯盛山の三吉ギツネの家内でございます。昨夜、子どもを産むことができました。この通り、大変元気です。三吉さんが心配していると思いますので、安心するように伝えてくださいませ。」と何度も礼をして頼んできました。男もキツネの優しい気持ちを受けて「よし、きつと伝えたるでえ。」と約束しました。男が、飯盛山のふもとで「おーい、三吉。西光寺野の方でお前のよめはんからのことづけや。昨日のばん、子どもが産まれた。親も子も元気やから安心せえ。聞こえたかなあ。」と言うと、「ご親切にありがとう。ありがとさんでした。お礼できるものがありません。これで辛抱してください。」と聞こえて、辺りが急に真っ暗になり、機織りをしているキツネのすがたが見えてきたそうです。男は「お礼したかったんやけど何もなかったんやろうなあ」と帰って行きました。この

ことがあってから、三吉ギツネを悪く言う人もなくなつたし、三吉ギツネも悪いことをしなくなつたそうです。

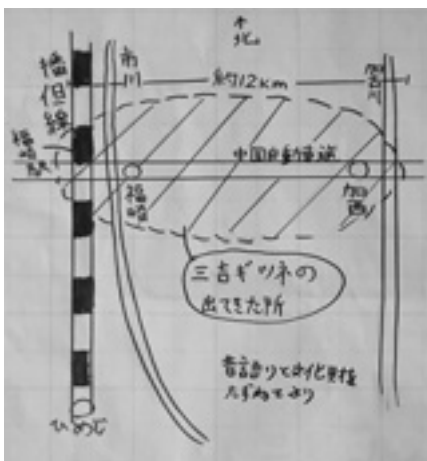


中島地区では、夜中にお医者さんの家の戸をトン、トンとたたたく男が来たそうです。「助けてください。お願いします。」と言われ、支度をして行ってみると、女の人が苦しんでいたの助けやると、毛深い子どもが産まれました。「元気な男の子が産まれたぞ。」と言って帰ろうとすると、「お礼は後ほど持って行きます。」と言われたそうです。何日か経って、大きな鯛を持って勝手口に立っている男が現れました。「先日のお礼を。」とのことでした。

また、何日か経って、魚屋さんから「この前、ええ鯛をキツネに持って行かれました。。」という話を聞いて、はっと思ったそうです。お宮の前を通った時にキツネの親子が並んでいたの、「もう悪いことをするなよ。」と言うと、「コン、コン。」と鳴きながら山に帰って行ったそうです。それからもう悪さをしなくなつたと言われています。

◆まとめ

わたしは、この三吉ギツネを調べて、キツネはとても悪いものだと思つていましたが、このキツネは決して人を殺したり、傷つけたりすることはありませんでした。でも、たくさんの人をだましたのも本当のようでした。今も、この三吉ギツネを入れてこさせないための儀式は、福崎にはたくさんあります。「トンド」や「きつねのおろよ」、「かくしほちよじ」はそのためにあります。この儀式や三吉ギツネがずっと語り継がれるのは、昔の人の注意とそれに感謝して大事に思う気持ちがあるからだとわたしは思いました。三吉ギツネは、今もわたしたちをどこかで見てるように思います。わたしも三吉ギツネのお話を語り継ぎたいと思いました。



第六回福崎町柳田國男ふるさと賞 小学生高学年の部 受賞

福崎町のお店について

田原小学校六年 萩原京太郎・中野唯吹



中野 唯吹・萩原京太郎

てみました。

お店を出した理由は、「高速道路から近い」「インターチェンジが近い」「交通の便が良い」「他の町から来やすい」「広い道路に面している」「車の出入りがしやすい」といった回答がありました。

福崎町にはたくさんのお店があります。特に田原小学校のまわりに集まっています。人口二万人ほどの町にどうしてこんなにたくさんのお店がつくられたのか調べたいと思いました。

まず、予想をたててみました。「高速道路が通り、そのインターチェンジがあるから」「お店の前に広い道路があるから」「家が増えて買う人が増えたから」ではないかと考えました。人が集まりやすいところがお店に有利だと思つたからです。

次に調べる方法を考えました。その結果、お店にアンケートをお願いして福崎町にお店を出した理由を聞いてみることにしました。また、いつからお店をはじめられたかも聞いて

考えていた通り、交通の便の良さや広い道路に面していることをあげられるお店が多かったです。自動車で買い物に来られるので道路沿いの駐車場のあるお店はやるのだと思います。また、インターチェンジがあるので広い範囲からお客さんを集めることができるでしょう。

それだけでなく、「チェーン店の拡大のため」「同じようなお店がなかったから」「町が発展していく可能性があったから」「前の会長さんの出身地だから」「感動を提供するため」といった理由もありました。

お店は競争が激しいので似たようなものを扱うお店があるかどうかも大事なことだと思いました。

「家が増えた」という理由はありませんでしたが、「発展していく」ことを見越してお店を出されたことがわかりました。

アンケート結果から新しい発見がありました。二つのお店を除いて二十五年以内にできており、新しいお店が多いことがわかりました。二つのお店は四十年以上も前からやっておられるとのことでした。また、「昔はこの店の前がメインストリートだった」と教えていただきました。

先生にこのことを話したら、四十六年前の福崎町の地図をくださいました。それを今の地図と比較してみました。四十六年前には「中国道も播但道もなかった」「役場も今の場所になかった」「現在お店が集まっている地域は道路も家もなかった」「まだ田原中学校があった」「福崎大橋もそれにつながる道路もなかった」ことなどが読み取れます。また、二つのお店は四十六年前の地図にある道路に面しています。

福崎インターチェンジができたのが昭和四十九年。その後、道路が整備され、新しくできた道路にそって広い駐車場を設けたお店が、二十五年前ぐらいからたくさんつくられたということが今回の調査でわかりました。

アンケート用紙をつくったり、お店を訪問してアンケートを頼んだりするのは初めての経験でとても緊張しました。でも、お店の方が優しく対応してくださったのでうれしかったです。どうもありがとうございました。

次はお客さんにどこから来られたのかをアンケートして、「交通の便の良さ」と福崎町のお店の関係をよくわしく調べてみたいと思っています。



<現在の田原地区>



<昭和47年の田原地区>

第六回福崎町柳田國男ふるさと賞 中学生の部 受賞

大歳神社の話

福崎西中学校二年 吉 田 愛 菜



◆はじめに

みなさんは「大歳神社」と聞いて、どの神社を思い浮かべますか。それはその人が住む地域によって違うと思います。なぜなら、福崎町には「大歳神社（大年神社）」が九社もあるからです。なぜ「大歳神社」が多いのか、そして実際にどのような神社なのかを疑問に思ったので調べてみました。

大歳神社とは「歳神を祀る神社」のことです。この「歳神」とは、一年の実りと幸せをもたらしてくれる神で、正月に門松・しめ飾り、鏡餅を飾るのは、すべて歳神様を心から歓迎するための準備だそうです。では、なぜ大歳神社が福崎町には多いのでしょうか。「大歳神社」「大年

神社」の件数ランキングによると、

- ① 兵庫県…二八〇件
- ② 広島県…六十五件
- ③ 島根県…二〇件

なんと、兵庫県の大歳神社の数が異常に多いことがわかりました。兵庫県内に二八〇社もあるなら、福崎町内に九社もあるのも納得です。また、中東播磨に集中していることも分かったため、大歳神社と播磨風土記の関係を調べてみたのですが、理解できそうな資料は見つかりませんでした。



神谷地区の大歳神社

◆福崎町内の大歳神社の見どころや特徴

調査した大歳神社は次の九社です。①優しい空気に包まれる桜地区の大歳神社②イチイガシの巨木は県郷土記念物に指定されている、百歳の森公園（スポーツ公園）に隣接する福田地区の大歳神社③新しいこま犬が魅力の神谷地区の大歳神社④コケ好きにはたまらない、コケが美しい西谷地区の大歳神社⑤ミステリアスな雰囲気がある加治谷地区の大歳神社⑥丸々としたこま犬と鬼瓦が目印の亀坪地区の大歳神社⑦木の門が素敵な南大貫の大歳神社⑧愛くるしいこま犬がいる大門地区の大歳神社。そして、⑨御神木でパワーみなぎる余田地区の大歳神社です。



愛くるしいこま犬（大門地区）

余田地区の大歳神社での見どころは、なんととっても、この境内にある大きな御神木です。よく御神木に手を当てたり抱きついたりして、パワーをもらう人がいますが、私はこの木に近づこうとしても、写真の距離が限界でした。どの角度から見ても迫力のある姿で、圧倒され、近づきたいけど近づきがたい、と感じました。私は八千種方面に初めてきて、そこでこんな素敵な神社と御神木に出会えるなんて思ってもいませんでした。この神社に来て良かったな、と思います。

また、余田地区の大歳神社ではおもしろい瓦を見つけました。みなさんは「神紋」というのをご存知ですか？家紋があるように、神社にも紋章がついています。余田地区の大歳神社の本殿の屋根についていたのは、丸に「竜胆」紋です。「りんどう」とは、秋ごろに紫の花を咲かせる植物の名前で、葉の形が笹に似ており、「ササリンドウ」とも呼ばれるそうです。この「竜胆」とは中国語で、根を噛むと苦く、まるで竜の胆のようだからこの字を当て、「リュウタン」の音が日本語になまり、「リンドウ」となったそうです。

さらに、余田地区の大歳神社には、



余田地区・大歳神社の御神木

門があり、その門の中には和歌が二十五首ほど奉納してありました。作者名が読み取れて、解読できそうな四首は次の通りです。

①山部赤人「田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ」②伊勢「みわの山いかに待ち見む年ふともたづぬる人もあらじと思へば」③紀貫之「さくらちる木の下風はさむからで空にしられぬ雪ぞふりける」④紀友則「夕されば螢よりにけに燃ゆれども光見ねばや人のつれなき」紀友則は、百人一首では「ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ」が入っています。情熱的な歌と、のんびりした歌は対照的で同じ人が読んでいるとは思いませんでした。

普段何気なく見ていた神社を「大

歳神社」にしぼって調べただけで、兵庫県の特徴が分かり驚きました。

◆さいごに

今回の研究を終えて、次のような新たに調べたいことも見つけました。

- ・大歳神社と播磨風土記の関係
- ・鬼瓦について
- ・神紋について

など、次回調べる機会があれば、掘り下げてみたいです。また、神社を回る際に、緑がうっそうとしげったジャングルのような道を車で走ったり、神社を探しながら探検したりするのは初めての体験で、とても楽しかったです。狭いと思っていた福崎町の広さを知り、緑の豊かさを改めて実感しました。福崎町がもっと好きになったし、これからもっと福崎町のことを知りたいなと思います。